

## 編集室紀行

### 第47回 日本看護学会— 看護教育—学術集会

#### 未来をひらく看護教育 取材記

8月4・5日、第47回日本看護学会—看護教育—学術集会が、前滋賀県看護協会会長の石橋美年子学術集会会長のもと、滋賀県、びわ湖大津プリンスホテルにて開催された。

基調講演には日本看護協会会長の坂本すが氏が、学会メインテーマでもある「未来をひらく看護教育」の講演を行った。協会長として、基礎教育4年制の実現を強く訴える坂本氏の話からは、変化する社会構造のなかで、看護の価値を改めて考え、また高めていこうとする意欲が感じられた。また、本会は会長講演のみならず、これからの看護のあり方を考える、という強い意思に貫かれていたように思う。未来を見据えた内容が充実していた。特に、シンポジウムのⅠとⅡは、非常に参加者も多く、まさに今、基礎、臨床問わず看護教育に携わっている方々のニーズをと

らえていた。

シンポジウムⅠは、「地域包括ケアシステム時代の人材教育」と題し、滋賀医科大学の奥水めぐみ氏、埴田和史氏、そして訪問看護ステーションみけの椎名美恵子氏が登壇した。

奥水氏が、同大学は滋賀県庁、滋賀県看護協会とも、卒後教育などで深く連携しつつ、助産師、保健師を取得しない学生に向けて、「訪問看護師コース」を学部に設けるという先進的な取り組みを発表されていた。埴田氏は、滋賀県は医療資源が乏しい県であり、また医学、看護学ともに卒業後、他府県に就職する学生が多く、地域医療の推進は必要に迫られて、と述べられていたが、こうした現状はおそらく日本中で起こっていることであり、多くの参加者の参考になったものと思われる。質疑応答では、他府県にて、同様の連携にもとづいた訪問看護師育成を図ろうとしている方からの問いかけもあった。どの地域でも、情報交換が求められていることだと感じる。

シンポジウムⅡでは、「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）を用いた看護実践能力育成の可能

性」とし、日本看護協会教育研究部長渋谷美香氏、大阪府看護協会会長高橋弘枝氏、滋賀県済生会地域ケアセンター前センター長の九里美和子氏らにより、新しく発表されたクリニカルラダーについての概要、活用方法が解説され、非常に実践的な内容であることもあり、多くの関心を集めていた。

特に、今回発表されたクリニカルラダーが、看護実践能力に着目したものであるため、すでに自施設でラダーを設定している施設からは、看護実践能力の定義の刷り合わせについての質疑が盛んに行われていた。具体的には、協会版のクリニカルラダーには、看護過程の展開という文言はないが、自施設では実践能力に看護過程の展開を置いており、どう刷りあわせるのか、という議論だった。

臨床側が看護実践能力をどのように定義しているか、基礎教育の教員の方々にも興味があると思われる。多くの問題提起と共有がなされた学術集会だった。（本誌編集室）